

岡山県医療対策協議会 平成23年度第2回会議（概要）

○日 時 平成23年6月10日（金）15:00～16:30

○場 所 県庁3階大会議室

【第2次岡山県地域医療再生計画（案）について】

- ・臨床研修については、岡山地域が良い循環システムを作り上げることだ。岡山医師研修支援機構と密接に連携しながら、いかに優秀な人材に岡山に来てもらうかということなので、地域医療支援センター事業を中心に、実践的にうまく回っていけば良い。
- ・今回の計画には自治体病院の再編が掲げられているが、将来的には、民間病院の統合も大きなテーマになる。
- ・現にある医療資源をどのように使えば、一定の広い地域で一番効率的な医療サービスを提供できるかを考えると、今回の自治体病院の再編計画は非常に良い。
- ・地域の病院を再編するには、ただ計画を示すだけではなく、地域でしっかり議論して知恵を出してもらうことが必要だ。
- ・自治体病院の再編計画については、パブリックコメントも賛否両論であり、地域の理解が十分ではない。対象地域の住民は、今ある病床が無くなることを不安に感じているのであり、訪問看護や介護を含めた包括ケア体制が非常に魅力的なものであることを理解してもらう努力が必要だ。例えば、先進的な取組により成果を挙げている事例を紹介するなど、市民の理解を深めるための働きかけを市に提案していきたい。
- ・自治体病院の再編計画には賛成だが、一つの二次医療圏に集中したイメージがあるので、三次医療圏のためのモデルケースであるといった文言修正が必要ではないか。
- ・回復期リハビリ病棟を充実させることによって、急性期病院から後方病院への流れを良くし、在宅医療を強化することによって、回復期リハビリ病院からの流れも良くしていく。つまり、患者の流れを良くし、モデルケースとして全県に広めていくという意味で、三次医療圏の課題解決に繋がると考えている。
- ・県全体の課題として、急性期から回復期リハビリ病棟へうまく流れていない現状があるので、今回の再編計画は、病床転換のモデルケースになり、非常に良い。また、障害児総合療育・医療センターの整備についても、NICUへの長期入院を解消する有効な施策であるので、ぜひ進めてほしい。

- ・回復期リハビリ病棟の整備は、県北地域においても喫緊の課題であり、今回の再編計画がモデルケースとなり、県北の自治体病院における病床転換への誘導を強く期待したい。
- ・県北も同様の状況であることは認識している。市町村が住民とともに地域医療について真剣に語る場が必要であると考えており、その中で回復期リハビリ病棟が必要であるとの声が出れば、自治体の意識も変わるのではないかと考えている。そういう意味で「市町村が主体的に行う地域医療の環境づくりへの支援」は、力を入れて取り組んでいきたい。
- ・看護師の確保については、いかに辞めないようにするかに力を入れることが大切であり、地元の病院だけではなく、いろいろな病院での実習を経験させることが、辞めないようにする一つの要素になる。また、人工呼吸器の取扱いなど、現状に合わせた研修を行うことが必要であり、一人でも多くの看護師を確保できるよう努力したい。
- ・現在では、患者は治療してもらおうのが当たり前という考え方がある。患者のマナーを良くすることは、地域に良い看護師を残すことに大きな意味がある。また、県北地域は交通手段が限られていることや、元気なお年寄りが多いため総合健診を受けることが少なくなったことから、救急をお願いするケースが増えている。県にとって大事な部分と、県北の自治体にとって大事な部分がすれ違いにならないようお願いしたい。
- ・医療関係者に加え、住民も含めた皆が岡山県の医療をどうすべきかを考えることが大切である。二次・三次救急病院に患者が押しかけてくるが大問題になっており、今回の計画では、初期救急体制の整備、県境における救急体制の確立、住民啓発プロジェクトが盛り込まれているが、これらのソフト事業をもう少しアピールする必要がある。また、開業医や住民に何を期待しているのかについての言及が少ないのではないか。
- ・治療を受ける立場の住民から、自分で決めた病院の先生になかなか診てもらえないという不服をよく聞く。患者としては、大きな病院へ行きたくても、良い先生に診てもらいたくても、辿り着けない現状があるので、何とかなれば良いと思う。